



なくそう核兵器 いかそう9条 2019年原水爆禁止国民平和大行進

5月6日、2019年原水爆禁止国民平和大行進の道東コースの出発式が納沙布岬で行われ、市民ら約30名が出席式に参加しました。

今回、東京までアピール行進を行う「通し行進者」は、原水爆禁止江戸川協議会会長の丸宗市さんで、37年間を小学校教員として勤めました。

丸さんは「私たちの活動の原点は教え子を戦場に送らない。その思いを一番実現するのは最悪な核兵器を無くすることだ。核兵器のない世界を実現するために、日本政府が(核兵器禁止条約に)批准するよう世論を高めるため頑張りたい」と決意を語りました。

出発式のあと、根室市街地をアピール行進しました。翌日以降に根室市長や市議会議長と懇談し、その後は道内各地を訪問しながら、住民の方々へ核兵器廃絶を訴える活動を行います。



第90回 メーデー根室市集会

5月1日、第90回メーデー根室市集会が開催されました。

あいにくの雨でデモ行進が中止となりましたが、室内の会場には根室市内の労働者ら約50名が参加しました。

水産業の低迷から市中経済は深刻な状況が続いています。人口減少に歯止めがかからず、多くの市民は生活に苦しさを抱え、また市内の企業などでは採用に苦慮する事業所なども少なくありません。

このような時だからこそ、メーデー集会で掲げられた「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」というスローガンが、日本の政治・社会でしっかりと実現していくことが、強く求められているのだと思います。



根室市下水終末処理場に 新たな汚水処理共同施設が稼働

根室市がMICS事業で整備した新たな「汚水処理共同施設」が、今年4月から稼働しました。

4月26日、根室市議会の産業経済常任委員会(千葉委員長)は、その施設の見学をおこないました。

根室市の「し尿処理場」は老朽化のため、新たな建て替えが必要でした。しかし国の制度を活用して、し尿処理の機能を下水終末処理場に合体させるための施設を、根室市が新たに整備しました。

これによって、国からの補助により市が負担する建設コストが大幅に抑えられ、また運営の経費も縮減されいく見通しだそうです。



市の消防・防災対応の現状を学ぶ

4月17日、根室市議会の総務常任委員会(壺田委員長)は、昨年12月導入の「災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車」と、今年完成した女性消防士専用の仮眠室等の施設を見学しました。その後「消防が保有する防災力と初動対応について」をテーマに、現状についての説明を受けました。根室市は昨年度の火災発生件数は9件と3年連続の過去最低数で、火災犠牲者は3千日間「0人」を更新しているそうです。市の消防職員は現在70名ですが、これは国の定める人員基準の7割以下。小規模な消防組織ほど充足率を高めることに苦慮していると言われています。

根室市では近年、老朽化した車両更新や防火水槽などの設置は比較的計画通りに進んでいます。しかし市財政が今よりもさらに厳しい時期には、必要な車両更新などを先送りしてきた経過もあります。

道東は巨大災害の危険が年々高まっており、消防職員の適切な配置や消防水利の整備など、消防力を強化することは地域の防災力にとって不可欠です。